

国道5号線改修事業（スレアマムーバタンバン間及びシソポンーポイペト間）コントラクトパッケージ2：  
既設国道5号線改修プルサットープレイスベイ間（カンボジア）



竣工後のNo.59橋梁

# 工程管理を徹底、リスク回避

## 大林組

カンボジアの首都プノンペンと隣国タイを結ぶ国道5号線は、ASEAN（東南アジア諸国連合）を道路でつなぐ経済の大動脈「南部経済回廊」の一部でもあり、カンボジアの経済発展に不可欠な存在だ。ただ、近年大型車の通行が急増し、その改修が課題となっている。国際協力機構（JICA）の有償資金援助で進められている国道5号線の改修工事のうち、大林組はプルサットープレイスベイ間の47kmの施工を担当した。洪水被害やコロナ禍を乗り越えて、工期末の1カ月前に開通させ、物流機能の向上や移動時間の短縮に貢献した。

## 工期を1カ月前倒し開通



施工を進める上で課題となったのは工程管理だった。長距離にわたる施工区間や、雨期と乾期に分かれる熱帯モンスーン気候、盛土材（土取り場）の確保、設計上の問題、現地業者の技術レベルに加え、2020年10月に発生した洪水被害からの復旧やコロナ禍でのリソース確保など複数の要因・課題が絡み合っていた。

大林組は18年の入札時から綿密な調査・計画を進めた。路床土取り場の必要量確保と運搬計画を立て、着工後の土工事を迅速に開始。また、不発弾探査に要する日程も考慮に入れて工程を管理した。最も重要となる土工事（路体・路床）は、1割の品質欠陥でさえ遅延につながることから、路体の基盤確認や必要な箇所の置換工、盛土材の厳選など品質の管理を徹底した。

施工管理の体制面では、道路工事の経験が豊富な日本人技術者を常に配置した。日々の施工手順を確認し、カンボジア人技術者が日本人技術者と同じ目線で現場を見て、品質・工程管理、安全管理を実践できるように、PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルを



都市部の完成状況

- 概要
- △実施者＝大林組
  - △実施国＝カンボジア王国
  - △実施都市＝プルサット州、バタンバン州
  - △プロジェクト関係者＝カンボジア王国公共事業運輸省（発注者）、片平エンジニアリング・インターナショナル、オリエンタルコンサルタンツグローバル、クメールコンサルタンタートエンジニアリング共同企業体（設計者）、国際協力機構（資金協力）
  - △実施期間＝2019年4月～22年9月

既設橋の拡幅工事では、協議を経てボックスカルバートに構造を変更することで、技術的な課題をクリアした。ボックス施工では土工事を優先させ、雨期前に水没想定箇所を先行施工し、工程遅延を回避した。

施工そのものの課題だけでなく、交通事故が多いというカントリーリスクにも直面した。「事故を起さない、事故は防げる」というスローガンを掲げ、スタッフ、重機オペレーター、運転手、作業員の一人ひとりに至るまで危機意識の徹底を図るため、トップ主導で根強い指導を継続した。特にタンプロックの交通事故はリスクが高いことから、最盛期では220台にのぼったタンクの運転手への指導・管理に重点を置いた。安全に対する意識が低い地元の村出身の作業員に対しては基本的な指導を繰り返し、「事故に遭わない、事故を起さないために何をすべきか」を理解してもらい、行動するように導いた。

本線だけでなく、迂回（うわい）路のメンテナンスや防じん対策も継続して実施したほか、第三者事故防止のための安全設備の充実を図り、事故リスクを徹底して排除した。地元政府機関や住民からの理解と協力を得ながら、こうしたリスク対策を積み重ねることで、重大事故の発生や環境問題による工事中断がなく工期内に竣工し、発注者の期待に応えた。（おわり）